

肢体不自由児の障害特性を踏まえたICTを活用した指導方法や教材・教具の工夫 No.17

「交流及び共同学習におけるICT活用」 ～ロイロノートを活用した調べ学習による学びの深まり～

事例児童の実態	小学校特別支援学級 6年生 ・校内であれば一人で歩いて移動することができる。 ・字形や大きさ、行を整えておむね書くことができるが、時間がかかる。 ・iPadの文字入力や音声入力、ロイロノートの操作を理解し、操作が一人でできる。
教科(単元名)領域	社会科(歴史分野)
使用した機器等	iPad、ロイロノート、キーボード付きカバー
社会科(歴史分野)で育てたい資質・能力	【知識及び技能】 ・資料を使って、各時代の出来事や人々の生活の様子について調べることができる。 ・日本や日本とつながりの深い国々の国土や様子がわかる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・問題を解決するために、世の中の変化や人々の様子に着目して、日本や世界の様々な課題と日本の取り組みについて、考えることができる 【学びに向かう力、人間性等】 ・日本や世界の国土や国の様子、暮らしを支える憲法や政治、歴史について興味や関心を持ち、進んで関わりを持ち、自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりする。

指導のポイント

- ・社会科は通常の6年生学級で交流及び共同学習を行った。
- ・なるべく一人で学習を進められるよう、ロイロノートを音声入力で活用した。

ICTを活用した実践

○一学期

担任がノートにめあてを書き、その後は自分で書いた。頑張って書いた達成感はあるが、読みやすい文字で書くことや、分かりやすく情報を残す、ノートにまとめることに課題があった(図1)。

○一学期後半～二学期

調べたことをグループで共有する際、自分でノートに記載していたが、他児が本児の文字を読めなかった。そこで、本児が教科書に線を引く等した内容を担任がノートに記載していた(図2)。

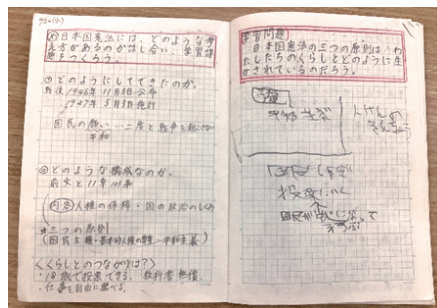


図1 社会科ノート(4月)



図2 社会科ノート(10月)

○12月以降

- ・社会科のノートをiPadのロイロノートを活用した音声入力に切り替えた。
- ・本児が音声入力する→担任がロイロノートの資料に貼り付けた。

- ・学年指導者からロイロノートに資料が送られるようになり、周りもタブレット端末を活用し始めたことから、本児も使用に対する抵抗感が少なくなった。
- ・家で予習したことを自分なりに分かりやすくまとめたいという意欲が高まった。

ICT を活用した実践（続き：活動の流れ）



図3 シンキングツールを活用



図4 授業中の様子

ロイロノートのシンキングツールから、まとめに使えるような枠を自ら探し、活用し始めた（図3）。

〇1月～

- ・左手で操作して資料の写真を撮ろうとするが、ピントがずれ、思った箇所が選択できない。

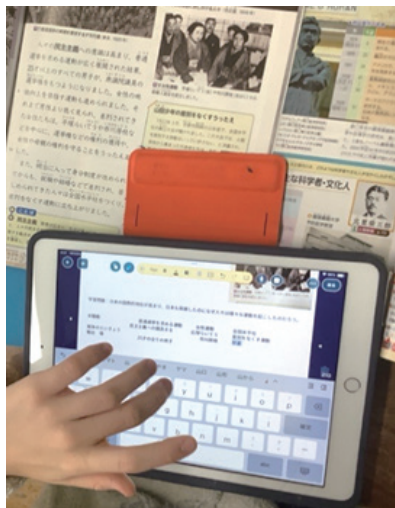


図5 調べ学習

担任が必要な資料を写真に撮っておくと、一人でまとめることができるようになった（図5）。



図6 グループ交流

iPad で作成した資料を見せながら、口頭で説明することができた（図6）。

児童の変容

- ・近くに担任がいても「自分でできます」と入力やまとめを自分なりの方法で工夫しながら取り組めるようになった。
- ・音声で次の場面に進むよう iPad に指示を出すなど、分かりやすく整理してまとめることが早くできるようになってきた。

本事例から学ぶ ICT 活用のポイント

- ・一人でできることが増え、主体的に学ぶことができる。
- ・将来的な ICT 活用を見据えて、自分にとって便利なツールを用いながら学ぶことで、その効果を実感し、今後の活用につなげることができる。

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 肢体不自由教育研究班

本事例は、令和6年度「肢体不自由教育研究班」基礎的研究活動に基づいて作成されたものです。

事例提供者：佐藤 摩耶（京都市立伏見板橋小学校）